

3 流域の社会状況

3-1 土地利用

流域の土地利用は、森林が約 95%、水田や畑地等の農地が約 1.5%、宅地が約 0.5%、その他が約 3%となっている。土地利用の割合は、過去からあまり変化がなく、流域内の開発はそれほど行われていない。

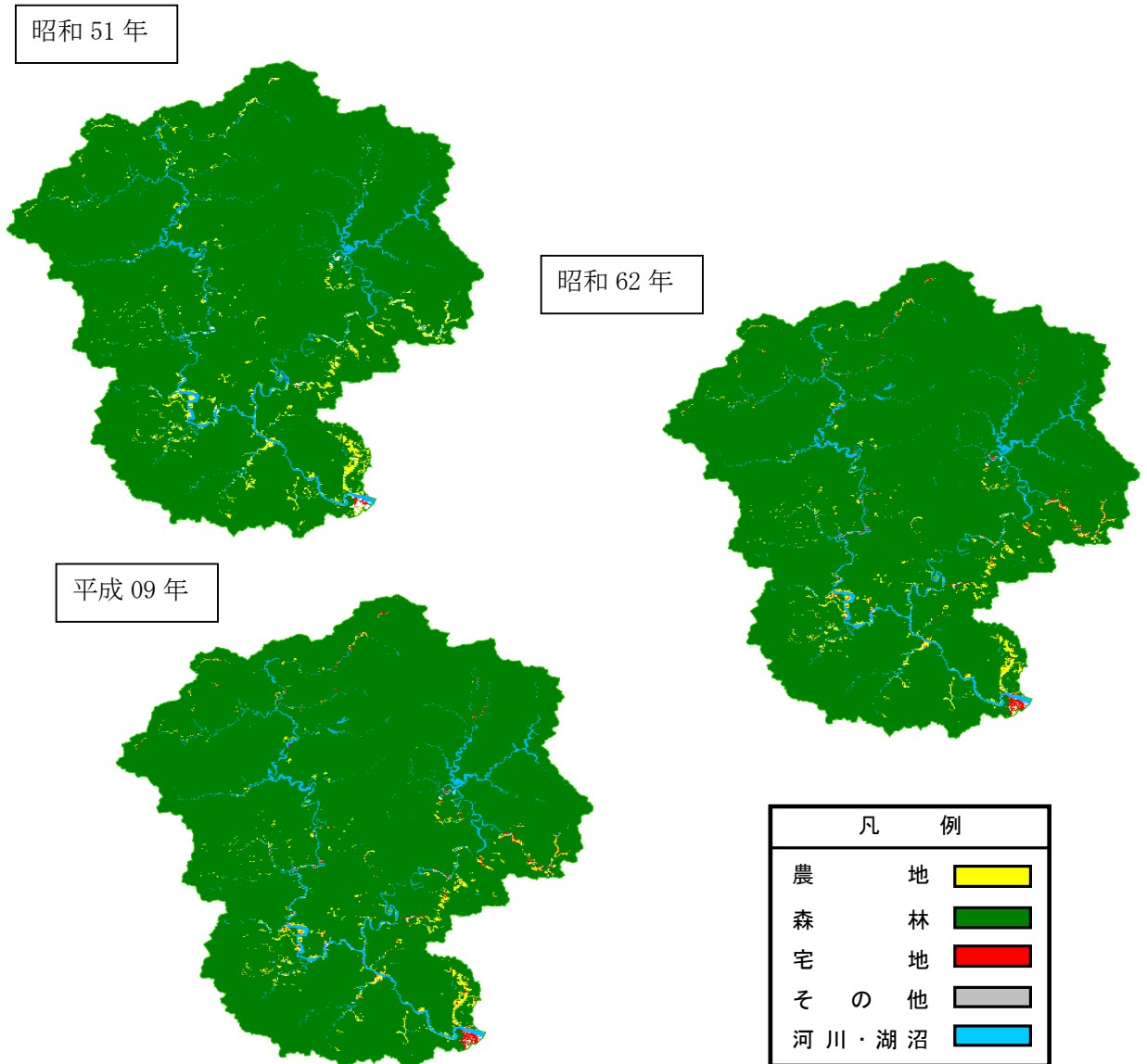


表 3-1 熊野川流域の土地利用

	昭和 51 年	昭和 62 年	平成 9 年
農地 (田・畑)	1.8 %	1.5 %	1.5 %
森 林	95.2 %	95.5 %	95.3 %
宅 地	0.4 %	0.4 %	0.5 %
その他	2.6 %	2.6 %	2.7 %

※ 河川・湖沼は「その他」に含める。

出典：国土数値情報（土地利用メッシュ）

3-2 人 口

流域の人口は、昭和40年の約9万人から、平成17年の約5万人に減少しており、その半数以上の人口は河口の新宮市に集中している。

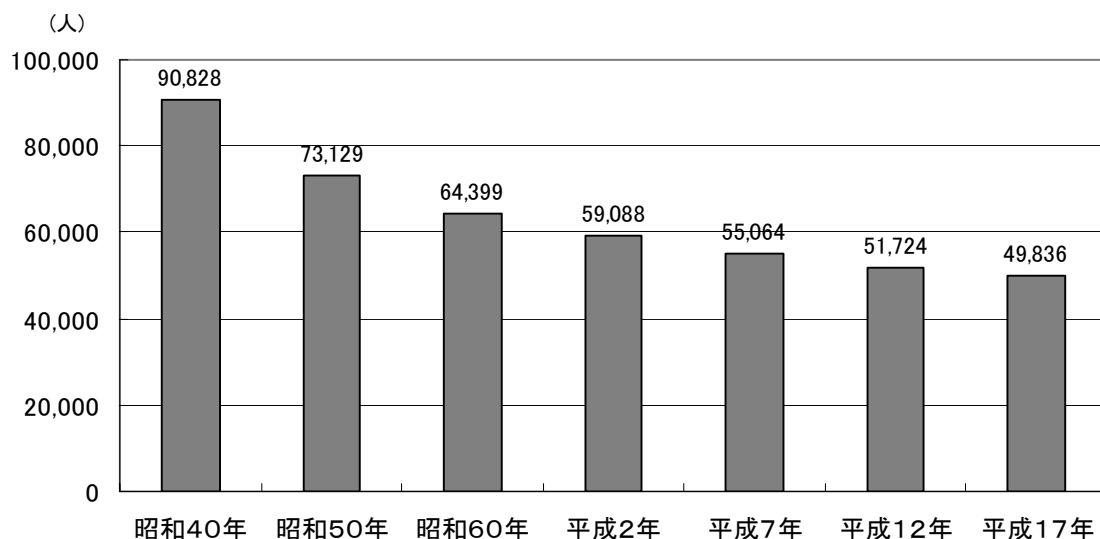


図 3-1 熊野川流域の人口

表 3-2 熊野川流域の人口

(単位：人)

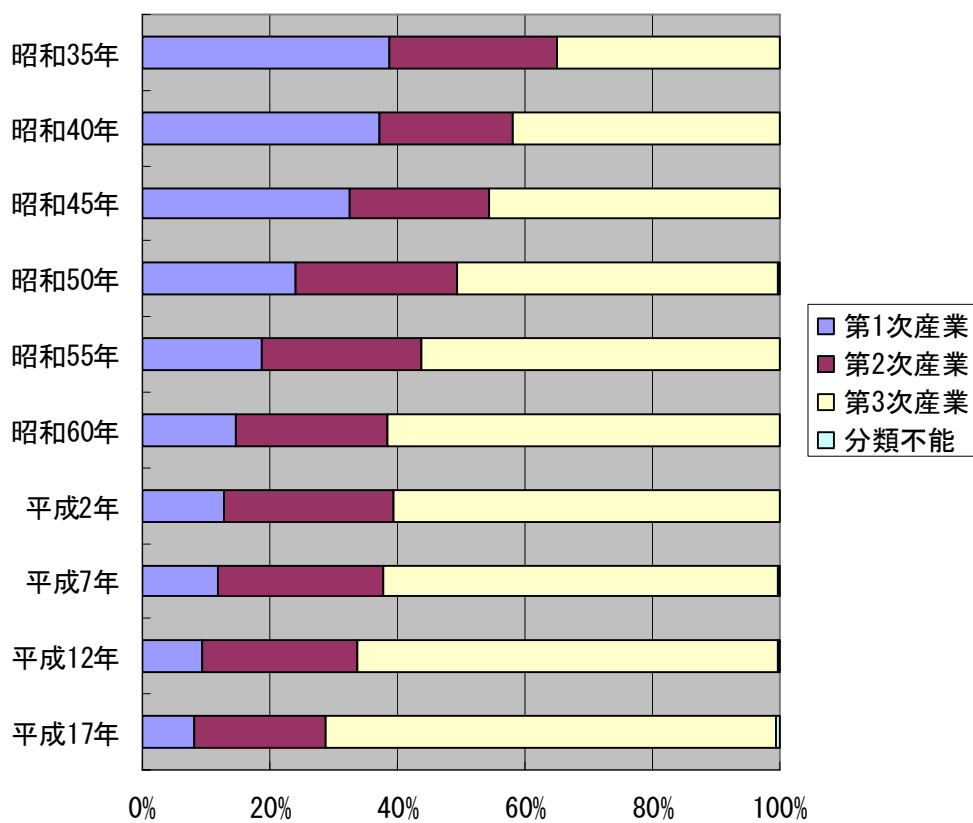
流域市町村	昭和40年	昭和50年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
和歌山県	新宮市	37,388	34,549	32,950	30,296	28,090	27,057
	田辺市	7,825	5,398	4,624	4,229	4,123	3,570
	那智勝浦町	0	0	0	0	0	0
	北山村	1,316	1,015	686	613	593	635
三重県	熊野市	14,058	9,044	7,042	6,338	5,630	4,733
	尾鷲市	0	0	0	0	0	0
	紀宝町	5,417	5,310	5,513	5,282	4,977	4,651
	御浜町	0	0	0	0	0	0
奈良県	五條市	2,312	1,274	927	809	871	609
	十津川村	10,776	8,086	6,001	5,516	5,202	4,854
	野迫川村	1,982	1,285	1,213	926	875	783
	天川村	4,559	3,654	2,731	2,519	2,310	1,800
	上北山村	2,007	1,463	1,123	1,046	1,023	915
下北山村	3,188	2,051	1,589	1,514	1,370	1,292	
合 計	90,828	73,129	64,399	59,088	55,064	51,724	49,836

出典：各年国勢調査

3-3 産業・経済

熊野川流域の産業については、古くは林業が盛んであり、河口の新宮市は木材の集積地として賑わい、製紙業、製材業が発展した。近年は、平成16年に「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に指定されるなど、観光業が盛んである。

関連市町村について産業別就業者数をみると、平成17年調査では、第三次産業が約71%と最も多く、ついで第二次産業の約20%、第一次産業の約8%となっている。昭和40年に比べて第三次産業は約29%増加し、第一次産業は約29%の減少となっており、この40年間で産業構造が大きく変化していることがわかる。



出典：各年国勢調査

図 3-2 関係市町村の産業別就業者数比率の推移

3-4 交通

流域の交通は、かつては舟運が木材をはじめとする物流に重要な役割をはたしてきたが、国道の開通やダム建設により、昭和30年代頃には衰退し、観光船等に形を変えた。

現在は、川沿いに国道が整備されており、熊野川沿いを国道168号、北山川沿いを国道169号が南北にとおり、国道425号が東西に走る。また、海岸部は国道42号及びJR紀勢本線が走る。流域内の主要都市である新宮市への大阪や名古屋といった都市からのアクセスは、こうした山越えや海岸沿いのルートとなり、直線距離に比べて所要時間を要する。



出典：スーパーマッフル関西道路地図/昭文社（2006）

図 3-3 熊野川流域の交通網